『大鏡』「花山天皇の出家」テスト問題〈Ⅰ／3〉

【一】本文について、設問に答えよ。

永観二年八月二十八日、位につかせ給ふ。御年十七。寛和二年丙戌六月二十二日の夜、①あさましく候ひしことは、人にも知らせさせ給はで、②みそかに花山寺におはしまして、御出家入道せさせ給へりしこそ。御年十九。世を保たせ給ふこと二年。その後二十二年おはしましき。

あはれなることは、おりおはしましける夜は、藤壺の上の御局の小戸より出でさせ給ひけるに、有明の月のいみじく明かかりければ、「顕証にこそありXけれ。いかがすべからむ。」と仰せられけるを、「さりとて、とまらせ給ふべきやう侍らず。神璽、宝剣渡り給ひぬるには。」と、粟田殿の騒がし申し給ひけるは、まだ帝出でさせおはしまさざりYけるさきに、手づから取りて、春宮の御方に渡し奉り給ひてZければ、帰り入らせ給はむことはあるまじく思して、③しか申させ給ひけるとぞ。

問一　次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。
①出家　②御局　③神璽　④春宮

問二　傍線部①の意味を答えよ。

問三　傍線部②を現代語訳したものとして、最も適切なものは次のうちどれか。
ア　ひそかに花山寺にいらっしゃって、
イ　ゆっくりと花山寺にいらっしゃって、
ウ　急いで花山寺においでになって、
エ　はやく花山寺においでになられて、

問四　傍線部X～Zはいずれも助動詞「けり」である。
（１）この中で文法的意味が異なるものを指摘し、記号で答えよ。
（２）（１）で答えた「けり」の用法を漢字で答えよ。

問五　傍線部③の指示内容を本文から二十九字（句読点は字数に含まない）で探して、はじめと終わりの三字を答えよ。

問六　本文の出典と、文学ジャンルを答えよ。